

事務 事業名	コード1	20600	環境中ダイオキシン類調査事業	事業 種別	☐ 国土強靱化地域計画	課	環境課			
	コード2				☐ 新市建設計画	所属班	環境政策班			
					☐ 総合戦略	電話番号	62-5328	内線	*472	
					☐ 復興計画	予算科目	会計			
施策 体系	施策	23	良質な環境の保全		☐ 定住自立圏構想		一般会計	4	1	5
	施策の展開	43	自然環境の保全		☐ 行政改革アクションプラン	根拠 法令	ダイオキシン類対策特別処置法			
		16			☐ 主要事業					
					☐ 簡易評価					

1 現状把握(Do)

(1)事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 12 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述→	ダイオキシン類対策特別処置法においては都道府県が汚染の状況の常時監視が義務づけられており、県と連携をして旭市内の環境中におけるダイオキシン類を測定し、環境基準と比較して安全な環境を確保されていることを確認する。測定時期は県の測定計画で定められ、測定箇所も県と協議をして決定する。測定結果については広報等で周知するとともに県に報告をし、環境基準を達成していない場合は、県と協議を行って共同で原因調査及び対策を実施する。 【測定箇所】大気：県と協議をして測定箇所を決定(5年間継続して測定)、水質：新川干潟大橋、土壌：中央児童公園 【業務の流れ】 測定業務委託→測定→結果を広報に掲載、千葉県に結果を報告

(2)トータルコスト

① 費目の内訳(26年度の実績)		単位:千円	単位	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (計画)	
1.委託料	1,015	ダイオキシン類調査等委託料	千円	893	840	1,015	1,156	
	0		千円					
	0		千円					
	0		千円					
② 特定財源の内訳(26年度の実績)		単位:千円	事業費計 (A)					
1.国庫支出金	0		千円	893	840	1,015	1,156	
2.都道府県支出金	0		千円					
3.地方債	0		千円					
4.その他	0		千円					
前年度比増減理由:委託料の増			千円	893	840	1,015	1,156	
③ 延べ業務時間の内訳(26年度の実績)		単位:時間	人	0.02	0.02	0.02	0.02	
測定対応(委託契約、施行確認等):35時間			時間	50	50	50	50	
結果対応(広報掲載、県への報告等):15時間			千円	190	190	190	190	
			トータルコスト(A)+(B)	千円	1,083	1,030	1,205	1,346

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (計画)
	26年度実績(26年度に行った主な活動) ダイオキシン類の測定 大気 年2回 2箇所 水質 年1回 1箇所 土壌 年1回 1箇所 27年度計画(27年度に計画している主な活動) ダイオキシン類の測定 大気 年2回 2箇所、水質 年1回 1箇所、土壌 年1回 1箇所	ア 大気測定(2箇所)	回	2	2	2	2
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	イ 水質測定(1箇所)	回	1	1	1	1
	生活環境	ウ 土壌測定(1箇所)	回	1	1	1	1
目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑥ 対象指標名	単位	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (計画)
	環境基準に対する状況が把握できる	ア 測定箇所	箇所	4	4	4	4
上位 目的	④ 上位成果指標名(考え方)	イ 市域面積	平方km	129.91	129.91	130.45	130.45
	市民が良好な住生活を送ることができる ※火葬場、畜犬含む	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (計画)
		ア 測定結果(大気) (旭市浄化センター(上段)支所(下段)) (環境基準:0.6 pg-TEQ/m ³)	pg- TEQ /m ³	0.043 0.023	0.055 0.044	0.073 0.043	0.060 0.060
		イ 測定結果(水質、新川干潟大橋(上段)) 測定結果(土壌、中央児童公園(下段)) (環境基準:1pg-TEQ/L(水質)、1,000pg-TEQ/g(土壌))	pg-TEQ /L pg-TEQ /g	0.20 1.7	0.33 2.8	0.41 0.83	0.5 5
	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (計画)	
	ア 環境基準達成率(ダイオキシン類)	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か?どんな経緯で始まったか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか?	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
廃棄物の焼却施設などから発生するダイオキシン類による健康影響の不安から環境中のダイオキシン類の測定に対する要望が多いことから開始した。	測定開始当初と比べて数値が減少傾向にある。	基準値以内で推移しているため、特に問合せはない。

事務事業名	環境中ダイオキシン類調査事業	課名	環境課	班名	環境政策班
-------	----------------	----	-----	----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 施策体系との整合性 この事務事業の目的は市の施策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 測定結果を広報で公表することで安心して良好な生活を送ることができる。
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 必要最低限の測定回数、測定箇所であるが、市内全体を評価することが出来る箇所数として国が示す標準的な測定箇所であるため、適切である。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 一般市民や民間による簡易な測定方法が確立されていないため、行政で行っている。
有効性 評価	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 測定箇所全てで環境基準を達成している。また、測定箇所数や方法についても県と協議を行っており、近隣市においても同様な測定を行っていることから成果の現状水準は妥当である。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？成果の向上余地はどの程度あるか？	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 必要最低限の測定回数、測定箇所であるが、市内全体を評価することが出来る標準的な測定箇所であり、測定箇所全てで環境基準を達成していることから、活動量を増やしても今以上成果は向上しない。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある (1) 事務事業名：(県のダイオキシン類調査事業) (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☒ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 土壌測定については県が旭市内の測定をすることもあるが、千葉県と協議を行って測定箇所を決定するなど既に連携を行っている。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分) 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 測定回数、測定箇所は国が示す最低限の回数で行っており、削減余地はない。
	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分) やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 測定業務は委託しており、その他の業務も必要最小限の業務時間であり削減余地はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 一般環境を測定しているため、偏ってはいない。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1)1次評価者としての評価結果		(2)全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	市民・事業者のみなさんと市が協働し連携して、市民に安心感を与えるため今後も継続して事業を行って行きたい。	

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1)今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性		(3)改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
					コスト																		
			削減	維持	増加																		
成果	向上																						
	維持		○																				
	低下																						
(2)改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？																							
いつまでに	なにを、どうするのか？																						
現状維持	現状維持の理由としては、千葉県と協議を行って測定しており、測定箇所、測定回数は国が示す最低限の条件により行っているため																						
(4)改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																							